

花橋

「未咲輝」について

スクールライフアドバイザー 清家信孝

「『明日』という字は明るい日」。私が学生時代に流行った歌の文句です。(「悲しみは駆け足でやってくる」アン・真理子・歌)「若いという字は苦しい字に似ている」が二番の歌詞。言葉遊びなんです、「なるほど」と首肯(うなず)けます。

「流行語大賞」で毎年クローズアップされるように、折々に現れる言葉は時代を映す鏡です。偶に疑問に思う言葉もありますが、さる言語学者に言わせれば、言葉は生きているので、世の流れに応じて変化する、徐々に市民権を得ていくものもあるとのこと。 「愛顔(えがお)」などは、どうなんでしょうね。(もちろん、今、漢字テストでは間違いですよ。)

さて、「未咲輝の小部屋」の住人となって三年になります。四畳半に満たないこの部屋を相談室として、皆さんに気軽に立ち入ってもらおうと、色々にレイアウトを企てた結果、実にエキセントリックな「パワースポット」仕様となりました。

好奇心から覗きに来る生徒も徐々に増え、適宜雑談に興じています。いかんせん、現在のコロナ禍により、気を抜くと密状態と化してしまうのが、悩みのタネ。最低限のディスタンスと換気でのいいでいます。

話を戻して、この「未咲輝」。

「未来に咲き輝く」が本義の当て字でしょうが、訓読すれば「未(いま)だ咲き輝かず」のマイナスイメージです。しかし、「まだ咲き輝いていない」のは、「これから咲き輝く」と肯定に裏返せますから、より印象的に本義に戻るわけです。なんとも、可能性と希望に満ちた言葉と言えます。

口に出して言えばもちろんですが、視覚的にも、言葉には霊力が宿っていると言えます。言わゆる「言霊(ことだま)」です。

「最西端から最先端へ」だつてそうです。掲げた目標(言葉)は生きています。

口にし、行動に移すことで、皆さんの将来が具現化され、学校、地域共々、真に輝かしく咲き誇ることを期待しています。

発行日
令和2年7月17日
第3号
発行・編集
三崎高校総務課

未咲輝学 スタート



木曜日の7時間目に未咲輝学の授業が始まりました。未咲輝学は、本校が文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に指定されていることに伴って開設された学校独自の科目です。この科目では、「SDGs」の理解を通して、地域で活躍する人材の育成を目指しています。

「SDGs」をご存じでしょうか。これは、持続可能な開発目標のことです。2015年に国際連合本部で行われた国連持続可能な開発サミットで採択された目標です。17のゴールと169のターゲットに着目して行動し、目標を達成することとされています。自然環境を保全することをはじめ、貧困の克服や地域社会の維持など社会を改善する取り組みも求められています。

1回目の授業では、全校でSDGsの概要を学びました。2回目からは学年やホームルームで、VTR視聴やグループ活動などを通して、様々な取組に触れ、アイデアを出しています。

高校生として、将来の社会人として、地球や地域に対して自分ができることを考え、行動できる人になってほしいと思います。